風土記の丘の花だより264

今、そしてこれから見られる植物（2025年3月15日）

長いお休みをいただきましたが、約 100 日振りに花だよりを発行させていただきます。
また愛読のほどよろしくお願いします。

木偏に春と書けば椿、ツバキですね。園内にもたくさんのヤブツバキの花が咲き、口ばしを花粉でまっ黄色に染めたメジロやヒヨドリが花の周りに集まってきています。万葉集では「こせ山の　つらつら椿　つらつらに　見つつしのはな　こせの春野を」という歌がよく知られています。意味ははっきり分からなくても、このリズミカルな歌を口にすると、軽やかで、春の訪れを喜ぶウキウキした気持ちが感じられますね。（野山に自生する野生のツバキをヤブツバキといいます。）

シキミというと、昔の葬式で、通路の両側に白い布で巻かれて、たくさん立てられていたのを連想する人も多いかと思います。でも今はそんな光景もめったに見られなくなりました。私や私の周辺ではシキミとは呼ばずにみんな「しきび」と言っていました。でも正式にはシキミが正解です。その葬式のイメージは捨てて、シキミの花を見ると、とてもきれいな薄黄色で、花びらも上品で、なかなか素敵です。毎年、年の暮れあたりから咲き始め、サクラの咲く頃まで、次から次に長く咲いています。きれいですが、有毒植物ですから、ご注意を。

去年の 262 号では、ヒヨドリが酔っ払うというヒヨドリジョウゴを紹介していますが、これは馬が酔っ払うアセビです。カタカナで書くと分かりませんが、漢字では馬酔木と書くのですぐ分かりますね。もちろん馬が酔っ払うのではなく、これもシキミ同様、有毒植物なので、馬が誤って口にすると、その毒で苦しんで、のたうち回る様子が、酔ってフラフラしているように見えて、こんな字が充てられたのでしょうね。まさか馬が食べることはないと思いますけどね。

本館のピロティを通り抜けて中央の階段を上ると右側にほのかに薄いピンク色のウメの花が咲いています。ブンゴウメです。今の大分県、豊後（ぶんご）の国に古くからあったので、この名前が付いたと言われています。アンズとウメの交配種とされています。花は普通の白梅より大きめで、重量感があるように感じます。花がなくても、若い枝が濃い紫色なのでわかりやすいです。松下